

青森ねぶた・弘前ねぶたへの子どもの関わりと意識 ～青森市・弘前市内小学校4年生を対象とした調査～

Changes in children's attitude through participation in traditional festivals, AOMORI-Nebuta and HIROSAKI-Neputa : A study with elementary school children of the 4th grade in Aomori and Hirosaki Cities

大谷 良光*・立田 健太**・井上 怜央***

Yoshimitsu OTANI*・Kenta TATSUTA**・Leo INOUE***

論文要旨：ねぶた・ねぶたが青森県内の学校教育との関わりを深めつつあると思われる現在、ねぶた・ねぶたへの子どもの関わりと子どもの祭りへの意識を調べる目的で、青森市、弘前市の小学校4年生を対象として調査した。その結果、両市とも観覧率は高く、また運行への参加率は約70%であった。運行では9割以上のこどもが、ねぶたがハネト、ねぶたが曳き手と参加していた。弘前市の方が地域ねぶたへの参加状況が多く、鳴り物での参加率が高かった。ねぶた・ねぶたの製作やお手伝いは、地域祭りが主で、大型ねぶた5%、合同運行16%と小学校4年生ではその関わりは少なく、その内容は紙貼りが主であった。祭りへの意識は高く、子どもなりに誇りと自覚を持ち、将来の職業の夢として25%がねぶた師を抱いていた。

キーワード：青森ねぶた、弘前ねぶた、祭り意識調査、祭り観覧・参加状況調査、ものづくり

1. はじめに

青森県津軽地方の伝統行事である青森ねぶた・弘前ねぶた（以下「ねぶた・ねぶた」と省略する）¹⁾は、全国的に有名で、特に青森ねぶた祭りは、東北三大祭りの一つとされ全国から多数の観光客が訪れる。しかし、ねぶた・ねぶたは、青森ねぶたのみでなく津軽地方の各市町村で行われている。

青森ねぶたは、8月2日から7日まで合同運行される企業・団体を中心にした大型組（人形）ねぶた（2005年度22台）がメインではあるが、実際には、その前後の日程で運行される地域（町）ねぶたの台数（2005年度56台）の方が多く、また、その台数も近年増え続けている²⁾。そして、多くの子どもたちはこの地域ねぶたに、町会の一員として囃子方、ハネト、曳き手として参加している。

この地域ねぶたに、学校、PTA、地域子ども会が団体として参加し運行しているものもあり、その数は年々増える傾向にある。

一方、弘前ねぶたは、企業・団体の大型扇ねぶたとともに、大型地域扇ねぶた、前ねぶたとしての小型扇ねぶた、小型組ねぶたも合同運行され、子どもたちは、企業、団体、地域のねぶた運行の囃子方、曳き手の一員として参加している。また近年、学校、PTA、地域子ども会が団体として参加し運行しているものもある。そして、他の津軽の市町村も弘前ねぶたのように企業・団体ねぶたと地域ねぶたの合同運行が一般的である。

ねぶた・ねぶたの運行は、ねぶた・ねぶた本体、前ねぶた・ねぶた、金魚ねぶた・ねぶたのような手持ち灯籠等の運行、笛や太鼓、手振り鉦で祭りを盛り上げる囃子方、運行中跳ね踊り回るハネト

* 弘前大学教育学部技術教育講座
Department of Technology Education, Faculty of Education, Hirosaki University

** 弘前大学教育学部学生、ねぶた師の弟子
A Undergraduate Student of Faculty of Education, Hirosaki University.
The apprentice of the Nebuta master

*** 弘前大学教育学部学生
A Undergraduate Student of Faculty of Education, Hirosaki University

(ないところもある)、ねぶた・ねぶた本体を引く曳き手、行列を指揮する先頭、扇子持ちなどからなり、それぞれが準備と練習を重ね参加し、そこには伝統としきたりがある。青森ねぶた本体を製作し指揮する方がねぶた師で、弘前ねぶたは絵師と呼ばれている。

さて、青森市では、平成13年4月に「青森ねぶた保存伝承条例」³⁾を施行し、第一条の目的³⁾を達成するために第四条(市の責務)第二項一において「教育の場における青森ねぶたの保存及び伝承についての教育」と施策をしている。この施策を受け学校はねぶた師の派遣を青森市に要請し、企画が実現したところから、学校での諸取り組みが行われているようである。しかし、ねぶた師という芸術家、または職人と呼ばれる方たちは平成18年5月現在11人で、40代以下のねぶた師がいない。また、弟子も約4名しかいなく、学校からの支援要請に応えられる状況ではないといわれている⁴⁾。

ところで、祭りに参加している多くの子どもたちは、運行団体の指揮下で活動をしているものと思われるが、ここ3～4年間、地域子ども会ではなく学校やPTAが直接運行団体となり、ねぶた・ねぶたに参加してきているところも増える傾向にある。

このように、ねぶた・ねぶたが学校教育と関わりを広げているにもかかわらず、看過する限り、その実態を明らかにした調査は行われていないと思われる。そこで、本研究では青森市と弘前市の小学校4年生に限定し、子どもがねぶた・ねぶたに対してどのような意識を持っているのか、どのように参加しているのかを調査し、その実態と課題を明らかにすることを目的としている。

2. 調査方法

本調査は青森市、弘前市の小学校高学年において、学校として「金魚ねぶた・ねぶた」の製作や地域ねぶた・ねぶたに関わっている各1校と、特に関わっていない各1校を選出し、同様のアンケート調査を実施した。調査は、親からの自立を求め仲間関係を模索していると考えられ、また、社会的事象に強い関心を示し始めると言われている小学校4年生を対象とした。調査数は4校の合計で330人、回答率は95%であった。各校ごとの調査数は表1のようである。調査は、2006年2月

に学級の時間を利用し担任立ち会いで行われた。

対象校 4年生	児童数 (人)	回答者数 (人)	回答率 (%)
青森市立A小学校	157	152	97
青森市立B小学校	66	65	98
青森市 計	223	217	97
弘前市立C小学校	72	69	96
弘前市立D小学校	49	44	90
弘前市 計	121	113	93

表1 調査校と調査数

第1の調査は、ねぶた・ねぶたへの参加状況を調べるために、4校の児童に対して質問紙を用い、(1)観覧状況、(2)参加内容、(3)製作と製作のお手伝いの内容、今後の希望の三つの項目で行った。

第2の調査は、青森市のA校に限定し、2005年11月に、151名に対して、「ねぶた意識評価尺度表」を用いて行った。この意識尺度調査は、(1)ねぶた祭りの運行に関して、(2)ねぶた祭りと社会との関わりについて、(3)ねぶたの製作に関して、の3つの領域であった。

3. 調査結果と考察 その1—ねぶた・ねぶた参加状況

(1)青森ねぶたと弘前ねぶたの観覧状況

①ねぶた・ねぶたの観覧の有無

ねぶた・ねぶたの観覧の状況は、表2のように青森市で96%、弘前市で95%と高く、「ねぶた祭り」「ねぶた祭り」が共に地域に深く根付いていることがわかる。このことは、表3の「観覧しなかった理由」でも、「興味がない」「みたいと思わない」が、青森市で調査総数の約1%、弘前市で約2%と極めて少ないことからいえる。また、「行く機会がなかった」「存在を知らなかった」は、転校生等と考えられる。

	有(人)	有(%)	無(人)
青森市立A小学校	144	95	8
青森市立B小学校	64	98	1
青森市 計	208	96	9
弘前市立C小学校	63	91	6
弘前市立D小学校	44	100	0
弘前市 計	107	95	6

表2 ねぶた・ねぶたの観覧状況

②観覧したねぶた・ねぶたの種類

観覧したねぶた・ねぶたの種類は、表4のように、町内（地域）ねぶた・ねぶたの観覧率が両市ともに33%であるのに対して、大型ねぶた（青森市）、合同運行ねぶた（弘前市）は、それぞれ89%、79%と高い観覧率である。ねぶた・ねぶた全体の観覧率（表2）と地元のねぶた・ねぶたの観覧率（表4）を比較すると、青森市で観覧率が96%から89%の7%ダウン、弘前市で95%か

ら79%と16%のダウンである。これは、両市の子どもの観覧が、大型ねぶたや合同運行ねぶたの観覧に限られないことがわかる。特に弘前市は、小学校4年生ということもあり、地域ねぶたの観覧しかしていない子どもが、調査対象者の16%いると思われる。

その他のねぶた・ねぶたの観覧は、両市以外の地域ねぶた・ねぶた祭り、特に五所川原の立ちねぶたが50%近くあった。

	行く機会がなかった		存在をしなかった		興味がなかった		見たいと思わなかった		その他	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
青森市立A小学校	3	37	1	13	1	13	1	13	2	24
青森市立B小学校	0	0	1	100	0	0	0	0	0	0
青森市 計	3	33	2	22	1	11	1	11	2	23
弘前市立C小学校	3	50	0	0	1	17	1	17	1	17
弘前市立D小学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
弘前市 計	3	50	0	0	1	17	1	17	1	17

表3 ねぶた・ねぶたを観覧したことの無い理由

	※複数回答可					
	大型ねぶた合同運行		町内ねぶた・ねぶた		その他	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
青森市立A小学校	126	88	39	27	22	23
青森市立B小学校	60	94	29	45	7	7
青森市 計	186	89	68	33	29	30
弘前市立C小学校	52	83	18	29	17	19
弘前市立D小学校	33	75	17	39	9	9
弘前市 計	85	79	35	33	26	24

表4 観覧したねぶた・ねぶたの種類

	毎年		約一年おき		1～2回	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
青森市立A小学校	109	77	14	10	19	13
青森市立B小学校	46	72	14	22	4	6
青森市 計	155	75	28	14	23	11
弘前市立C小学校	36	56	14	22	14	22
弘前市立D小学校	29	66	8	18	7	16
弘前市 計	65	61	22	20	21	19

表5 観覧の頻度

③ねぶた・ねぶた観覧の頻度

観覧の頻度は表5のように、青森市は毎年観覧している児童が75%、弘前市は61%である。概ね1年おきを含めれば観覧の頻度は、青森市89%、

弘前市81%と多く、町の行事として位置付いていることがわかる。

④ねぶた・ねぶたの観覧に誰と行ったか

小学校4年生ということもあり、親との観覧が青森市96%、弘前市88%と圧倒的に多い（表6参照）。兄弟や親戚の方との観覧も20%前後あり、観覧には家族・親戚と出向いている様子が伺える。

	※複数回答可									
	親		兄弟		親戚		友達		その他	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
青森市立A小学校	137	95	35	24	27	19	29	20	6	4
青森市立B小学校	63	98	18	28	12	19	18	28	0	0
青森市 計	200	96	53	25	39	19	47	23	6	3
弘前市立C小学校	62	98	6	10	12	19	6	10	1	2
弘前市立D小学校	43	98	16	36	7	16	10	23	3	7
弘前市 計	105	98	22	21	19	18	16	15	4	4

表6 ねぶた・ねぶたの観覧にだれと行ったか

	有		無	
	(人)	(%)	(人)	(%)
青森市立A小学校	91	60	60	40
青森市立B小学校	57	88	8	12
青森市 計	148	68	68	32
弘前市立C小学校	46	67	22	33
弘前市立D小学校	34	77	10	23
弘前市 計	80	71	32	29

無回答C小1名

表7 ねぶた・ねぶた運行の参加の有無

※複数回答可

	大型ねぶた 合同運行		町 内 ねぶた		その他	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
青森市立A小学校	76	84	20	22	6	7
青森市立B小学校	31	54	32	56	1	2
青森市 計	107	72	52	35	7	5
弘前市立C小学校	23	50	11	24	24	52
弘前市立D小学校	15	44	18	53	9	26
弘前市 計	38	48	29	36	33	41

表8 参加したねぶた・ねぶた運行の種類

※複数回答可

	参加する機会 がなかった		参加できること を知らな かった		興味なかった		参加したいと 思わなかった		その他	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
青森市立A小学校	37	62	14	23	7	12	16	27	7	12
青森市立B小学校	3	38	1	13	2	25	3	38	0	0
青森市 計	40	59	15	22	9	13	19	28	7	10
弘前市立C小学校	7	32	4	18	9	41	12	55	0	0
弘前市立D小学校	6	60	0	0	0	0	2	20	2	20
弘前市 計	13	41	4	13	9	28	14	44	2	6

表9 ねぶた・ねぶたの運行に参加しなかった理由

(2)青森ねぶたと弘前ねぶたの運行参加状況

①ねぶた・ねぶた運行の参加の有無

ねぶた・ねぶたの運行への参加状況は表7のよう
に、青森市で68%、弘前市で71%と高いと思わ
れるが、観覧に比べると30%弱減じている。

また、参加しなかった理由は表9で、「参加す
る機会がなかった」「参加できることを知らな
かった」という参加希望を内包しているグルー
プが、青森市で81%、弘前市で54%、「興味がな
かった」「参加したいと思わなかった」という参
加希望消極的グループが青森市で41%、弘前市で
72%であった。この選択肢は、複数選択有りとし
たため、児童は両面の気持ちを持ち答えているも
のもあると思われる。

表8のように参加した運行の種類は、青森市
は大型ねぶたが72%と多く、弘前市は合同運行が
48%、町内ねぶたが36%、その他が41%と合同運
行への参加が青森市に比べて低いことが特徴的
である。その他は、学校、幼稚園、保育園での運行、
他地区での参加である。「その他」が弘前市のC
小に多いが、これは校内のねぶた祭りへの参加を
表しているものと予想され、この参加データが各
市の一般的特徴を表しているとは言い切れないと

思われる。

②ねぶた・ねぶた運行の参加内容

運行の参加内容は、表10の「青森市の大型ねぶ
た」「弘前市の合同運行」、表11の各市の町ねぶ
た・ねぶたに分けて調べた。

大型ねぶたでは、ハネトの参加が約9割、合同
運行ねぶたでは、曳き手が97%とほとんどの参加
児童が関わっていることがわかる。運行形態の違
いが子どもの参加内容にも反映している。他の参
加内容で特徴的なことは、弘前市では「太鼓」で
の参加が34%と高く、地域ねぶたの広がりからし
てこの年齢から太鼓をたく機会が与えられると
推測できる。

地域ねぶた・ねぶたの参加内容でも、ハネトと
曳き手の参加率が高いことには変わらないが、青森
市では、笛、かね、曳き手の参加が、弘前市でも、
太鼓、笛、かねといった鳴り物の参加が増えている。
町ねぶた・ねぶたでは、児童も重要な祭りの
担い手として参加している。

ここで特筆すべき点は地域・学校がねぶた・ね
ぶたに関わっているかによって参加内容が異なっ
ていることである。青森市内の二校を比較してみ

※複数回答可

大型ねぶた 合同運行ねぶた	参加 数	太鼓 太鼓		笛 笛		かね かね		ハネト ハネト		化ケト 化ケト		曳き手 曳き手		その他 その他	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
青森市立A小学校	76	6	8	3	4	14	18	69	91	0	0	10	13	1	1
青森市立B小学校	31	1	3	8	26	7	23	26	84	0	0	2	6	0	0
青森市 計	107	7	7	11	10	21	20	95	89	0	0	12	11	1	1
弘前市立C小学校	23	9	39	1	4	3	13	—	—	—	—	20	87	0	0
弘前市立D小学校	15	4	27	4	27	2	13	—	—	—	—	15	100	0	0
弘前市 計	38	13	34	5	13	5	13	—	—	—	—	37	97	0	0

表10 青森市大型ねぶた・弘前市合同運行ねぶたでの参加内容

*その他一水引き

※複数回答可

町ねぶた 町ねぶた	参加 数	太鼓 太鼓		笛 笛		かね かね		ハネト ハネト		化ケト 化ケト		曳き手 曳き手		その他 その他	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
青森市立A小学校	20	2	10	1	5	0	0	11	55	0	0	9	45	0	0
青森市立B小学校	32	0	0	14	44	9	28	9	28	0	0	4	13	0	0
青森市 計	52	2	4	15	29	9	17	20	38	0	0	13	25	0	0
弘前市立C小学校	11	2	18	0	0	2	18	—	—	—	—	9	82	2	18
弘前市立D小学校	18	2	11	6	33	3	17	—	—	—	—	13	72	0	0
弘前市 計	29	4	34	6	21	5	17	—	—	—	—	22	76	2	7

表11 青森市町ねぶた・弘前市町ねぶたでの参加内容

*製作物については複数回答可

	経験有		経験無		本 体 (手伝い)		前 (手伝い)		金 魚 (自作)		金 魚 (手伝い)		燈籠		その他	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
青森市立A小学校	29	19	121	81	4	14	0	0	18	62	9	31	2	7	1	3
青森市立B小学校	42	67	21	33	8	19	1	2	36	86	5	12	2	5	0	0
青森市 計	71	33	142	67	12	17	1	1	54	76	14	20	4	6	1	1
弘前市立C小学校	44	66	23	34	7	16	12	27	37	84	5	11	2	5	2	5
弘前市立D小学校	36	82	8	18	0	0	0	0	33	92	3	8	0	0	0	0
弘前市 計	80	72	31	28	7	9	12	15	70	88	8	10	2	3	2	3

表12 ねぶた・ねぶた製作に関わった経験の有無に関わった製作物 *その他一人形ねぶた

※複数回答可

	製作に関わった 総人数	骨組み		配線		紙張り		墨書き		ロウ抜き		色塗り	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
青森市立A小学校	4	2	50	0	0	3	75	1	25	2	50	1	25
青森市立B小学校	9	6	67	0	0	9	100	5	56	9	100	9	100
青森市 計	13	8	62	0	0	12	92	6	46	11	84	10	76
弘前市立C小学校	19	3	16	3	16	7	37	7	37	1	5	8	42
弘前市立D小学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
弘前市 計	19	3	16	3	16	7	37	7	37	1	5	8	42

*作業内容経験の割合は本体、前ねぶた・ねぶたの製作に関わった総人数との対比である

表13 本体・前ねぶた・ねぶたの製作お手伝いに関わった作業工程内容

ると、町ねぶたに関わりのないA小学校では、ハネトとしての参加が大半を占めている。しかし、地域ねぶたに関わるB小学校では笛やかねといった、ただ参加するだけでなく、技術を必要とする参加方法が多く見られる傾向がわかる。

(3)青森ねぶた・弘前ねぶたの製作に関わった経験

① 製作に関わった経験の有無に関わった製作物

ねぶた・ねぶたの製作、お手伝いに関わった経験の有無は表12のように、経験があるは、青森市で33%、弘前市で72%であった。地域ねぶた・ねぶたに何らかの関わりのあるB校とC校はともに高い数値の関わりとなっている。青森市と弘前市の39%の経験率の差は、調査数によると思われる、この結果のみで両市に経験率の差があるとは断定はできない。

製作・お手伝いした製作物では、金魚ねぶた・ねぶたの製作、お手伝いが、青森市で96%、弘前市で98%と両市とも圧倒的であり、それも「自作した」と思っている経験が多かった。

ねぶた・ねぶた本体の製作のお手伝い、前ねぶた・ねぶたの製作のお手伝いも両市とも約2割ほどいる。全体に占める割合は、青森市で5%、弘前市で16%であり、小学校4年生では、関わりをもつ児童はそう多くない。

②本体・前ねぶた・ねぶたの製作・お手伝いで関わった作業工程内容

本体・前ねぶた・ねぶたの製作お手伝いで関わった作業工程内容は表13で、青森市では、紙貼りが92%と最も多い。しかし、他の工程での関わりも多く、製作のお手伝いをしている子どもは、全ての工程を観察できる近い位置にいたと思われる。

弘前市は、製作のお手伝いをした子どもはC小のみで、地域ねぶたの製作に関わってのお手伝いと思われる。骨組み等にも関わっているところを考えると、前ねぶたの組（人形）ねぶたの製作に関わった子どもたちと思われる。

③金魚・灯籠等のねぶた・ねぶたの製作場所

金魚・灯籠等のねぶた・ねぶたの製作経験は、表14のように学校で行ったものが弘前市で8割近く、青森市でも3割台であった。

※複数回答可

	市民センター等で行う教室 ¹⁾		商売等で行っている場所		学校		その他	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
青森市立A小学校	5	17	5	17	2	7	13	45
青森市立B小学校	8	19	1	2	24	56	0	0
青森市 計	13	18	6	8	26	36	13	18
弘前市立C小学校	4	9	1	2	31	70	8	18
弘前市立D小学校	2	6	0	0	32	89	2	6
弘前市 計	6	8	1	1	63	79	10	13

*1)の選択肢の文言は「クラブや子ども会、市民センターなどで行う教室」である。

*その他は、親の会社、保育園等

表14 金魚ねぶた・ねぶた等の製作場所

④金魚ねぶた・ねぶた等の製作希望

ねぶた・ねぶたの製作経験やお手伝いをしたことのない子どもに「金魚・灯籠などのねぶた・ねぶたの製作をしてみたいと思うか」と聞いたところ、表15のようであった。

製作経験のない者が67%と多かった青森市の児童の製作希望が75%と高く、特にねぶたに関わりなかったA校では、「思う」が81%と、「作ってみたい」という要求を多くの子どもたちが抱いていた。

	思う		わからない		思わない		その他	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
青森市立A小学校	98	81	13	11	9	7	1	1
青森市立B小学校	8	38	7	33	6	29	0	0
青森市 計	106	75	20	14	15	11	1	1
弘前市立C小学校	13	57	5	22	5	22	0	0
弘前市立D小学校	2	25	2	25	3	38	1	12
弘前市 計	15	48	7	23	8	26	1	3

表15 金魚・灯籠ねぶた・ねぶたの製作希望

⑤本体や前ねぶた・ねぶたの製作手伝い希望

ねぶた・ねぶたの製作経験やお手伝いをしたことのない子どもたちに「ねぶた・ねぶた本体や前ねぶた・ねぶたの製作を手伝ってみたいと思うか」と聞いたところ、表16のようであった。

前項の調査の金魚ねぶた・ねぶた等の製作希望と比較すると、青森市が65%、弘前市が39%と両市とも、10%ほど低くなっている。この下がりには、本格的なねぶた・ねぶた製作への関わりが、まだ不可能と思っているのか等、推測は立てられるが定かでない。また、調査母数の問題もあり本調査のみでの考察は不可能である。

	思う		わからない		思わない		その他	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
青森市立A小学校	87	72	17	14	15	12	2	2
青森市立B小学校	6	29	9	43	6	29	0	0
青森市 計	93	65	26	18	21	15	2	1
弘前市立C小学校	11	48	5	22	7	30	0	0
弘前市立D小学校	1	13	3	38	3	38	1	13
弘前市 計	12	39	8	26	10	32	1	3

表16 本体や前ねぶた・ねぶたの製作やお手伝いに参加したことのない子どものお手伝い希望

4. 調査結果と考察 その2－ねぶたへの子どもの意識

3つの領域で、ねぶたへ対する意識を調査した結果は、表17のようである。また、この調査は、前述したように青森市のA小学校のみの調査である。

(1)ねぶた祭りの運行に関しての意識

祭りそのものについての意識は、「祭りのねぶた本体・前ねぶたなどがすばらしい」が91%、「太鼓・笛・カネなどの囃子がすばらしい」が83%、「祭りのハネト・バケットなどの踊りがすばらしい」が61%、「祭りの屋台などのお店にぎわうことがすばらしい」が55%であった。「花より団子」の時期と思われる小学校4年生が、ねぶた本体そのものや、祭りの鳴り物の文化そのものに「すばらしさ」を感じていることは意義あることと思う。ハネトの踊りや、屋台のにぎわいは、黒ハネト問題、混雑による迷惑等、考えさせられる問題もあり、「わからない」が3割位いることが現実を反映している結果となったともいえよう。

(2) ねぶた祭りと社会との関わりについての意識

ねぶた祭りと社会と関わりについての子どもの意識は、「青森ねぶたが、世界に誇れる祭りだと思う」が84%、「青森ねぶたが、日本有数の祭りだと思う」が86%、「青森ねぶたが、青森市の発展にとって重要な祭りだと思う」が84%と、多くの子どもがねぶた祭りの意義を子どもなりに理解し、誇りに思っていることがわかる。

また、「古くから伝わる祭りを大切にする必要があると思う」が89%、「古くから伝わる祭りを、子ども達に伝えていく必要があると思う」が79%と、誇りと自覚が伝統文化の尊重というモラルを醸し出している。

さらに、95%の子どもが観覧し、65%が運行に

参加している大型ねぶたや地域ねぶたで、「ねぶたづくりや祭りでいろいろの人と交流できることがすばらしい」と思っている子どもが70%いることは、他府県や外国から訪れる観光客との交流のメリットを自らの体験や、情報として認識したことを語っているとも考えられる。

ねぶたの継承を願う人たちにとって関心のある、ねぶた師の後継者についての意識は、「私は将来ねぶた師になれるならばなりたいと思う」が25%もあり、強く思う子どもが約1割もいる。将来の職業の夢の調査と合わせれば、その客観的意識がはかれるが、夢であろうと4人に一人の割合で、ねぶた師が憧れの職業であるという結果は、関係者にとって心強いことといえる。

(3) ねぶたの製作に関しての意識

A小学校は、金魚ねぶたを含めたねぶたの製作や、製作のお手伝いの経験のある子どもが約2割という状況である（表12参照）。

そこで、「私はねぶた本体や前ねぶたをつくるお手伝いをすることは、素晴らしく楽しいことと思う」が59%で、「ねぶた本体や前ねぶたへの誇りの意識－91%」（表17参照）からすると、低いと思われる数値になり、「わからない」が32%と多い。また、「金魚ねぶたや灯籠ねぶたをつくることは素晴らしく楽しいことと思う」が68%と、ねぶた本体より身近にある金魚ねぶたの製作に「素晴らしさと楽しさ」をより求めていると考えられる。

このことは、「ねぶた本体や前ねぶたの製作や、お手伝いに参加したい希望者」が72%と高い（表15参照）けれども、製作経験やお手伝い経験者が少ないために、「素晴らしさと楽しさ」を意識しにくかったのではないかとはいえる。

次に、製作の内容についての意識は、「私はねぶたをつくる素晴らしさ楽しさは、骨組みを作り組み立てることにあると思う」が51%、「私はねぶたをつくる素晴らしさ楽しさは、デザインと色づかいにあると思う」が72%であった。組ねぶたの骨組みの醍醐味と絵の素晴らしさを子どもなりに理解している数値と思われる。骨組みと絵の意識の数値差は、子どもの認識において表層のものが意識されやすいことを示していると思われる。

総じて考察をすれば、青森の子どもたちは、ねぶた祭りは世界に誇れる、日本で有数の祭りとして誇

りを持ち自覚し、観覧して感動し、運行に参加し、機会のある子は製作や製作のお手伝いをしていた。

しかし、小学校4年生のためか、ねぶたそのものの製作やお手伝いへの意識は、高いとはいえず、誇りと感動を確かな意識にするためには、製作やお手伝いの機会を増やすことが求められていると考えられる。

5. 結論

小学校4年生の青森ねぶた・弘前ねぶたへの関わりと意識の調査結果と考察を整理すると以下のようになる。

第1に、ねぶた・ねぶたの観覧率は、青森市で96%、弘前市で95%と高く、また、観覧したねぶた・ねぶたの種類は、町内ねぶた・ねぶたの観覧率が両市ともに33%であるのに対して、大型ねぶた、合同運行ねぶたは、89%、79%であった。観覧の頻度は毎年と概ね1年おきを含めれば、青森市で88%、弘前市82%と観覧率は高く、ねぶた・ねぶたは、多くの市民に親しまれ、子どもたちは家族や親戚の方々と観覧している様子が明らかになった。

そして、地域や学校でねぶた・ねぶた活動を行っているB小学校とC小学校は、大型ねぶたや合同運行の観覧率も高かった。また、青森地域ねぶたの観覧率も同市の他校より、18%と高いことがわかった。これは地域での活動が子どもたちのねぶた・ねぶたの意識に影響していると考えられる。

第2に、祭りの地域での盛り上がりは、祭りにどれ位の市民が関わっているかである。今回の調査では、ねぶた・ねぶたの運行への小学校4年生の参加状況は、青森市で68%、弘前市で71%と高いと思われるが、観覧に比べると30%弱減じている。都市化が進む両市で、小学生の参加率がこれほど高いことは、観覧率が95%であることと考え合わせると、町の祭りとして位置付けているといえよう。

参加した運行の種類は、青森市は大型ねぶたが72%と高く、弘前市は合同運行が48%、町内ねぶたが36%、その他が41%と合同運行への参加率が青森市に比べて低い。言い換えれば、弘前市は地域ねぶたへの関わりが多いことが特徴的といえる。

また、参加の内容は、大型ねぶたでは、ハネト

ねぶた意識アンケート項目	意識段階 %				
	①	②	③	④	⑤
(1)ねぶた祭りの運行に関して					
1. 私は祭りの太鼓・笛・カネなどの囃子が、素晴らしいと思う	51	32	13	1	3
2. 私は、祭りのハネト・バケトなどの踊りが、素晴らしいと思う	27	34	27	9	3
3. 私は、祭りのねぶた本体・前ねぶたなどが、素晴らしいと思う	68	23	7	3	0
4. 私は、祭りの屋台などのお店がにぎわうことが、素晴らしいと思う	32	25	28	9	7
(2)ねぶた祭り和社会との関わりについて					
1. 私は、青森ねぶたが、世界に誇れる祭りだと思う	63	21	14	2	1
2. 私は、青森ねぶたが、日本有数の祭りだと思う	66	20	12	1	1
3. 私は、青森ねぶたが、青森市の発展にとって重要な祭りだと思う	56	28	14	1	1
4. 私は、古くから伝わる祭りを大切にしたいと思う	67	22	9	1	1
5. 私は、古くから伝わる祭りを、子ども達に伝えていく必要があると思う	52	27	19	1	2
6. 私は、ねぶたづくりや祭りでいろいろな人と交流できることが、素晴らしいと思う	38	32	22	5	3
7. 私は、将来ねぶた師になれるならば、なってみたいと思う	8	17	24	15	36
(3)ねぶたの製作に関して					
1. 私は、ねぶたや前ねぶたをつくるお手伝いをすることは、素晴らしく楽しいことと思う	44	15	32	5	3
2. 私は、金魚ねぶたや灯籠ねぶたをつくることは、素晴らしく楽しいことと思う	45	23	27	2	3
3. 私は、ねぶたをつくる素晴らしさ楽しさは、骨組みを作り組み立てることにあると思う	26	25	42	4	4
4. 私は、ねぶたをつくる素晴らしさ楽しさは、デザインと色づかいにあると思う	49	23	24	1	2

*段階 ①強くそう思う ②どちらかといえばそう思う ①+②で、肯定的と評価
③わからない ④どちらかといえばそう思わない ⑤そう思わない

表17 ねぶたに対する意識尺度調査

の参加が約9割、合同運行ねぶたでは、曳き手が97%と参加した子どものほとんどが関わっている。これは、運行形態の違いが子どもの参加内容にも反映しているといえよう。他の参加内容で特徴的なことは、弘前市では「太鼓」での参加が34%と高く、地域ねぶたの広がりからしてこの年齢から太鼓をたたく機会が与えられると推測できる。このことは、文化の伝承という視点から見ると示唆を与えている。

ただし、参加した運行の種類や参加内容のデータは、学校が置かれた地域の状況により異なるため、各市の一般の特徴を表しているとは言い切れず、調査校を増す必要がある。

第3に、ねぶた・ねぶた製作に関わった経験については、小学4年生で、ねぶた・ねぶたの製作、お手伝いに関わった経験のあるものは、青森市で33%、弘前市で72%であり、地域ねぶた・ねぶたに何らかの関わりのある学校は高い数値となっていた。また、製作・お手伝いした製作物では、金魚ねぶた・ねぶたの製作、お手伝いが主であった。

ねぶた・ねぶた本体の製作のお手伝い、前ねぶた・ねぶたの製作のお手伝いも両市とも約2割ほどいたが、全体に占める割合は、青森市で5%、弘前市で16%であり、小学校4年生では、関わりをもつ児童はそう多くなかった。

本体・前ねぶた・ねぶたの製作・お手伝いで関わった作業工程内容は、紙貼りが中心であり、金魚・灯籠等のねぶた・ねぶたは、学校で作ったものが主であった。

また、金魚・灯籠、本体や前ねぶた・ねぶたの製作経験やお手伝いをしたことのない子どもたちの製作・手伝い希望は、運行参加数に比べて高いものとはいえなかった。ただし、金魚ねぶた・ねぶた等への製作希望は高いものであった。小学4年生の発達段階を考えれば、華やかな祭りの運行そのものへの憧れと、華やかさを創り出すねぶた・ねぶたの製作物へのこだわりはまだそう生まれていないとも推測できる。

第4に、祭りそのものについての子どもの意識は、「祭りのねぶた本体・前ねぶたなどがすばらしい(91%)」、「太鼓・笛・カネなどの囃子がすばらしい(83%)」と思い、また、「青森ねぶたは世界に誇れる祭り(84%)」「日本有数の祭り(86%)」だと思い、「青森ねぶたが、青森市の発展にとって重要な祭りだと(84%)」と、祭りの

意義を子どもなりに理解し、自覚していることがわかった。

また、「古くから伝わる祭りを大切にする必要がある(89%)」、「古くから伝わる祭りを、子ども達に伝えていく必要がある(79%)」と、誇りと自覚が伝統文化の尊重という認識を形成していた。

ねぶた祭りを司るねぶた師の後継者についての意識は、「私は将来ねぶた師になれるならばなってみたいと思う」子どもが25%もあり、夢であろうと4人に一人の割合で、ねぶた師が憧れの仕事であるという結果は、関係者にとって心強いといえよう。

しかし、小学校4年生のためか、ねぶたそのものの製作やお手伝いへの意識は、高いとはいえず、誇りと感動を確かな意識にするためには、製作やお手伝いの機会を増やすことが求められていると考えられる。

本調査は小学校4年生のみが対象で、比較対象校の条件も調査母数が異なるなど、客観的に明らかにするには統計上で弱点を抱えている。

しかし、ねぶた・ねぶたへの子どもの関わりと子どもの意識の輪郭が明らかになり、今後の調査の研究課題も見えたことは、パイロット調査としての目的は果たされたといえよう。

さて、今後の課題としては、調査校数、調査対象学年を増やした関わり調査、弘前市でのねぶたに対する子どもの意識調査、立ちねぶたとして有名になってきた五所川原市での調査などが必要と思われる。また、学校教育とのねぶた・ねぶたの関わりを明らかにすることを研究目的にしている本プロジェクトでは、学校がどのようにねぶた・ねぶた関わっているかの、実態調査が必要になる。この調査は、各市の祭りの「推進施策」との関わりのある内容のため、各市教育委員会との共同調査を求めたい。

最後に調査にご協力いただいた関係諸学校の校長先生、担任の先生に深く感謝申し上げます。尚、この調査は、2005年度教育学部研究推進経費により実施した。

註

1) ねぶた・ねぶた・ねぶたの起源については諸説があるので、ここでは「ねぶた・ねぶた」の表記にした。松本明知著、『ねぶたーその起源と呼称』津軽書房、等参照。

2) 青森ねぶた祭実行委員会事務局作成の Web ページ参照 <http://www.nebuta.or.jp/pages/2005/chiikinebuta.htm>

3) 青森ねぶた保存伝承条例は、前文と第1条ー目的、第2条ー市民の責務等、第3条ーねぶた参加団体の責務、第4条ー市の責務、第5条ー施策の推進、第6条ー委任、と附則で構成されている。

第1条の目的は次のようである。

第一条 この条例は、青森ねぶたを、文化財保護

法（昭和二十五年法律第二百十四号。以下「法」という。）に基づき重要無形民俗文化財の指定を受けた青森のねぶたの保護団体である青森ねぶた祭保存会とともに、市民一人ひとりが次の世代へ誇りを持って引き継ぐことについて、市民自らがその当事者であることを自覚し、深い理解と愛情のもと、健全で良好な姿で保存及び伝承するために必要な施策等について定め、もって市民文化の向上に資することを目的とする。

4) ねぶた師の後継者不足問題の核心は、ねぶた師の経済状況にあり、ねぶた師の収入だけでは家族を養っていけないとのことである。

(2006. 7. 21受理)